

2026年の立夏は5月5日（月）です。

立夏（りっか）は穀雨の後に続く初夏の季節です。本格的な夏が来るのは梅雨明け以降になりますが、この時期は新緑が青々と茂り、温かく湿り気を帯びた風にも少しずつ夏の気配を感じることができます。

5月5日は端午の節句。

もともとは中国から伝わった厄払いの行事でした。武士の時代になると男の子の節句という意味合いが強くなっていき、江戸幕府が五節句を定めたのをきっかけに、男の子の成長と出世を願う行事として定着しました。

1948年の法改正で端午の節句は男女を区別することなく祝う「こどもの日」となりました。



瀬谷区長屋門公園の鯉のぼり

この時期の行事として名高いものには、京都で毎年5月15日に行われる「葵祭」があります。上賀茂神社と下鴨神社の祭礼で、平安時代から続く伝統的な行事です。葵祭で装飾として使われるフタバアオイの葉は、徳川將軍家の「葵の御紋」としても知られていますが、実物はみずみずしい緑色が美しく、この時季らしく成長する生命の力強さが感じられます。

「路頭の儀」（行列）の御所車、勅使、供奉者の衣冠などに飾られた緑の葉。

これは「葵桂（“あおいかつら、または“きつけい、”）」とって、桂の小枝に、下鴨神社と上賀茂神社の神紋である二葉葵の葉を絡ませたものです。社殿や腰輿や社殿を葵で飾り、人も葵を身につけることから、「葵祭」と呼ぶのが一般的となっています。



その他、主なイベントとして、柏餅・ちまきを食べる食文化や菖蒲湯などの伝統行事があります。『菖蒲湯に入る』は病を避ける縁起のよい行事です。また、新茶の季節であり、八十八夜にちなんだ香り高い新茶を飲む茶摘み体験や、豊作を祈願する御田植神事、春のツツジ祭りなども各地で開催されます。

『彼岸より 庭木動かし 夏に入る』 高浜虚子

意味：お彼岸の頃から庭の草木を動かしていたら、立夏をむかえてしまった。